

升等論文代表著作

申請人：廖永光助理教授

服務單位：致理技術學院應用日語系

中華民國九十六年九月

升等論文代表著作

文學小說與口語體之關係

廖永光 著

致良出版社有限公司

中華民國九十六年九月

升等論文代表著作

名稱：文學小說與口語體之關係

代表著作為學位論文之一部分，屬延續性研究而且具有創新

作者：廖永光

著作摘要：

- 一、在學術用語上，十五世紀以後的英文稱為「modern English」，十八世紀以後的法文稱為「Français moderne」。「現代日本語」是指明治(1868)以後的日本語。然而，前述這兩個國家已不再使用此一術語。因為避免產生混淆。但是相對的有另一稱呼，就是「Contemporary English」及「Français contemporain」。可是日語裡仍然不習慣此一名稱。本文提議「現代日本語」包括：「狹義的現代日本語」及「今日日本語」。理由在1868年至1945年的日語，和1945年以後的日本國語相差極大。此一提議是本文獨特探討之處。
- 二、「文言一致」運動起於明治時代。如同其他改革，日語口語體的改革，有其歷史之背景。然而今天的專家們誤解了當時有志者的語言改革之原因。本文志在澄清此一事實。因為「文言」不等於「古典文學」。而明治時代的語言改革者是針對官方的「漢文訓讀文」來發起運動。此一問題亦是本文獨特之研究並加以證實。
- 三、「今日日本語」是來自明治時代的文學小說家，二葉亭四迷的「浮雲」的發表。時間是1887年(明治二十年)。但是真正的展開是始於1946年(昭和二十一年)「日本國憲法」的公佈之後。因為「今日日本語」的形成，是來自當年的「口語體小說」。但是依本文的研究，當年的「口語體小說」的文章寫法與「今日日本語」的文體比較，有極大的差別。本文從口語的轉變、语法家的口語體文法之概念、從歷史假名用法轉為現代假名用法、及漢字的簡化、標點符號的運用等等，努力將「狹義的現代日本語」的口語體文學小說，改寫成今天日本的代表語言—「今日日本語」。此外，本文乃跨文學、法學及語學三領域，來研究今日「口語體」的形成。是屬最新文獻。論文結構簡明，理論一貫，而且，以事實為依據，例舉「口語體小說」的內容，詳述文學小說影響語學及法學的始末。是前所未有的發表。在結論的章節裡，本文亦建言口語及文語的定義，目的在徹底把握「今日日本語」的特質。

目次

文学小説と口語体との関係

升等論文代表著作

中国語要旨	4~5
第一章 口語体小説運動の考察	6~7
文学小説と口語体との関係	
第一節 口語体小説の成立	20
第二節 口語体小説改革の目的	27~50
第二章 口語体小説の成立の経緯	51~52
第一節 口語体小説文壇の形成	51~77
第二節 口語体の展開	78~122
第三章 結論	123~131
参考文献リスト	134~141

廖永光 著

出版年份：2007年

出版單位：致良出版社有限公司

目次

文学小説と口語体との関係

日本語要旨-----	2~3
中国語要旨-----	4~5
第一章 口語体小説運動の背景-----	6~7
第一節 時期の日本語の現状-----	8~26
第二節 口語体小説改革の目的-----	27~50
第二章 口語体小説の成立の経緯-----	51~52
第一節 口語体小説改革のプロセス-----	53~77
第二節 口語体の展開-----	78~122
第三章 結論-----	123~133
参考文献リスト-----	134~141

文学小説と口語体との関係

日本語要旨

明治維新後のに日本の有識者は、「富国強兵」を目指すため、いろんな分野から国の文明化を進めていく。例えば、維新の過程のなかでは、文学と言語の領域における改革も激しかった。周知のとおり、その中の一つは、「言文一致」運動、即ち、言語改革のことである。そして、この運動の背景にはそれなりの原因が存在した。実は改革の当時の言語はかなり多様多彩であった。この多様化のなかには、明治政府を代表する公文章がある。これは文語に属する漢文訓読文である。この文語の特徴は漢字漢語と片仮名から組み立てられていることである。思うにそれほど読みやすいものではない。だから、文章と日常会話の言葉とを一致にさせるために言語改革が起ったのである。

このような言語改革の背景の中で、明治二十年に二葉亭四迷という人物がでた。彼は小説家だから、この「言文一致」運動の真っ最中に「浮雲」という文学小説を発表した。例の小説はただの物語ではなく、いわゆる名高い「口語体小説」であるさらに史上発であった。このように、日本語の口語体化はこの文学小説である「浮雲」のスタイルを通して発展してきて、今日の日本国語になったわけである。

もともと明治時代の国家を代表する言語は漢文訓読体の言葉であって、文語であった。この文語というのは、即ち、「言文一致」運動の「文」であり、書き言葉の文章のことである。書き言葉というと当時は漢字漢語のことを指す。しかし、この漢字漢語は実は日本において千年以上の歴史を持っていたが、特に表面化された問題でもなかった。ところが、今度は事情が違って、時代はちょうど明治維新である。国の有識者は文明開化を求めため、国民の読みやすい文章を作らなければならないと思った。故に、口語体運動のときに文学小説家たちは言語改革へ介入して、日常会話を使ってそして小説のスタイルを通して書いて発表した。このように口語体は文学小説のおかげで発展していくとともに洗練されて、戦後の日本において主流の言語になったのである。

本論文その全体は、三つの章からなる。

まず、かつての口語体と文学小説とのつながりについて、言語改

革の背景を述べる。そしてその背景になる時期の日本語の現状や口語体小説を改革する標的は何かを究明して論じる。日本語の性質をもっと把握するためである（第一章）。

続いて、われわれは口語体小説の成立した経緯を探るため、その改革へのプロセスを究明しなければならない。それから、口語体は文学小説の形のもとで展開されていく過程をこの章で論じる。そして、このプロセスの間に協力して登場した小説家、言語学者、または文法家たちのおかげで、立派な口語体が成立し、日本をすばらしい二一世紀に導いたのである（第二章）。

結論のところであるが、われわれは口語体に関する用語について、例えば、いままであまりはっきりされていない専門術語などを新たに定義する。そして、できるだけ、本文の中で引用した戦前の文学小説を年代順に追って、現在の話し言葉と口語体文法を通して「今日日本語」にする。目的は本論文の研究を通して、日本語の学習者が日本語をもっと理解できるようにすることである（第三章）。

Keywords : 文語、口語、話言葉、書言葉、日本語、言文一致

文学小説、口語体、文語体、漢文訓読体、現代日本語、

今日日本語、口語体文法、口語体小説